

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0190501411), 法人名 (社会医療法人 共栄会), 事業所名 (グループホーム まいホーム川北A館), 所在地 (札幌市白石区川北2条1丁目7-8), 自己評価作成日 (平成29年12月1日), 評価結果市町村受理日 (平成30年3月7日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ホームの前に畑があり、毎年、花や野菜を植え入居者様と共に収穫等を楽しみながら手入れをしている。又、収穫した野菜等を使用し、メニューを工夫している。
・町内会の春・秋のゴミ拾いやお祭り、防災訓練などの行事に参加したり、ホームでのお祭りや七夕等を行う事で町内会の方々との交流が出来ている。
・入居者様一人一人の誕生日や行事など企画し、季節等を感じられる様努めている。
・地域との繋がりを大切に、社会の一員として個人の尊重したケアを行っている。
・お便りに写真を載せ頻りに面会に来られないご家族にもホームでの生活されている様子等、分かる様にしている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action kouhyou\_detail 2017 02 2\_kihon=true&JigyosyoCd=0190501411-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成30年2月7日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームまいホーム川北」は2階建て3ユニットで住宅地に立地し、開設して17年目を迎えようとしている。バス停から近く駐車場も完備しており、家族や知人が訪れやすい環境にある。多数の地域関係者の出席を得て開催している運営推進会議では、周辺に川があることから常時防災関連が議題に上がり、地域や家族、事業所の共通課題として活発な意見交換が行われている。地域との関係性も良好で、祭りなど相互の行事で交流がある。利用者と近所の子供達と一緒に花火を楽しんだり、七夕での来訪、子供神輿の披露、近隣の中学校との交流は利用者の五感刺激に繋がっている。外出支援では家族の協力を得て、散歩や買い物、自宅訪問、ドライブを兼ね花を觀賞したり、音楽好きな利用者と一緒にコンサート会場に出かけるなど、外気に触れる機会を作っている。利用者と同じ目線に立ち、利用者がいつも笑顔になれる環境作りを目指している事業所である。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff/user interactions.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を職員全員が理解し、理念を共有し実践に繋げる事が出来ている。また、ユニットとしての年間目標を立て、定期的に確認し実践に繋げている。	「そこにいるだけで癒やされる環境作りを目指して」を基本に5項目からなる理念を策定し、さらに毎年、理念を具体化したユニット目標を掲げている。年2回、「楽しい生活環境になっているか」など実践の確認を行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ゴミ拾いやお祭りなど町内会行事に参加したり、ホームで開催しているお祭りや避難訓練・運営推進会議に参加・協力して頂いている。	町内会と事業所の行事には相互の交流がある。玄関前で近所の子供達と一緒に花火を楽しみ、七夕では子供達の来訪、神社祭では子供神輿を玄関先で迎えている。近隣の4ヵ所の中学校や他地域の高校との交流もあり、利用者の五感刺激になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	白石丁稚奉公や施設見学の受け入れをして認知症の説明や関わり方を伝えている。また避難訓練や運営推進会議に参加して頂いた際に、認知症を理解して頂ける様、支援の方法などを伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に推進会議を開催し、ホームの状況・ご家族へのアンケート結果・外部評価結果・避難訓練結果・勉強会で検討している災害対策状況等を報告し、意見交換をしてアドバイスを頂き実践に繋げるようにしている。	会議は町内会館で行われ多数の地域関係者と数名の職員の出席があり、地域と事業所の相互理解に繋げている。防災関連の議題では、地域・家族・事業所の共通課題として協議している。また、町内会や地域包括センターからの情報提供もあり、運営に反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市や区、特に生活保護課担当者と連絡を取り合い相談している。また管理者会議や在宅ケア連絡会などで、情報の交換を行っている。	運営に必要な連絡事項等を通じて、行政の各担当者とは馴染みの関係になっている。各種報告や会議等への出席、介護保険認定時、利用者の様子確認で来訪時等で、意見や情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等は研修に参加し、ホーム内でも伝達講習しており理解できている。また玄関の施錠に関しては、防犯の為に19時以降に行っているが、身体拘束をしないケアを日々心掛けている。	入居時に書面にて身体拘束をしないケアを説明している。マニュアルの整備や外部・内部研修等で学びを深め、実践に努めている。グレーゾーンに当たる事例については、管理者や職員間で注意喚起を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加してホーム内でも伝達講習をし、その内容を基に勉強会で虐待について学び、何が虐待にあたるか注意を払い、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は少なく、理解不足の所もあるが、入所者様に必要性がある事は個々に制度を利用してはいる。これから学ぶ機会を積極的に得て行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の見学時に十分な説明を行い理解頂くようにしている。解約時も同様に納得を頂けるまで説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートを取ったり意見箱を設置し、ご家族の面会時に職員と話しが出来る機会を作り、ご家族が話しやすい様にしている。又、要望が伝えられない利用者の方は日々の会話や生活の中から本人の希望をくみ取れる様努めている。	利用者や家族の要望・意見は、日々の関わりや家族アンケート、家族来訪時等で把握している。課題が生じた場合は改善に向けて職員間で協議し、利用者にとって良い環境になるよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	責任者会議やユニット会議で管理者と話をしている。代表者と会う機会はないが、管理者を通して意見や提案を伝える様にしている。	法人職員は都度来訪し、管理者と情報を共有している。管理者は業務の中で職員の意見や提案を傾聴し、ケアの充実に生かしている。また、必要時には個人面談を行い、就業環境の整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回人事考課があり、職員のストレスチェックを実施するなど、職員の状況を把握する機会を作っている。人員不足が現在の課題である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会の提示が頻繁にあるが、勤務との兼ね合いで実際に研修に行ける機会は減っている。ホーム内では新人指導は全職員で行っており、定期的に勉強会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等で同業者と意見交換の機会を作るようにしており、それらを参考にして実践に反映しサービスの向上に繋げられる様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接やセンター方式を利用して情報を集めた上で、ご本人が求めている事や不安な事等を把握出来る様努め、安心して新しい生活を送って頂ける様取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時等にご家族の要望や不安を尋ね、その後も面会時や電話で対話する機会を設けて良好な関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前情報やセンター方式を基にケアプランを作成し、ご本人やご家族が望まれる必要なサービスが提供出来る様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が出来る事・やりたい事が継続出来る為の環境を整え支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人に関する情報を面会時や電話、毎月郵送するお便りを通じて伝える事で、ご家族との情報共有を図り、状況に応じて協力を仰いでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話は何時でもして頂ける環境を作っており、外出もご家族に協力して頂きながら行って頂ける様支援している。	家族や知人の来訪時や電話等は、快く対応している。利用者の要望で馴染みの美容室や商店等へ同行している。家族の協力で自宅訪問や家族の居宅訪問をしている利用者もいるなど、社会的繋がりを大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の方々が孤立せず、他者と円滑な関係が築ける様職員が間に入るなどして支援に努めている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後連絡を取り合ったり現状を把握出来ている方はほとんどいないが、稀にそのご家族の方が来訪して下さいがある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活状況、生活歴、職員が得た情報を会議時に交換する等して本人の希望や想いをくみ取れる様努め、出来る限りそれに沿った支援が出来る様心がけている。	利用者の思いは、会話や動作等でキャッチしている。生活歴や家族からの情報を参考に、利用者の満足度に繋げている。音楽の好きな利用者は、職員と共にコンサート会場に出かけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式やアセスメントシート、担当ケアマネージャーや医療機関等からの情報を活用して把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の様子をケース記録に記入し、職員全員が正しい情報把握が出来る様努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族との話し合いや、モニタリングを踏まえ毎月での会議での検討、またご本人の言動から得た情報を考慮しながら介護計画を作成している。	ケアプランの定期的見直しや状態変化時は、日々の関わりから得た利用者や家族の意向を基本としている。ケアプランと連動している介護記録や毎月のモニタリングを踏まえ、職員間で検討して新たなプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個人記録を詳細に記録し、それ以外にも連絡ノートを作成して様々な情報共有を図り、会議時に確認しながら、その後のケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時には買い物や外出・受診同行をご家族の代わりにする等、状況に応じご本人やご家族と相談しながら柔軟な支援が出来る様努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事には可能な限り参加し、地域住人とのコミュニケーションが取れる様支援している。また近隣の訪問美容や市のおむつサービスを活用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や、ご家族と相談しながら希望する病院を受診できるよう調整したり、状況がわかるように受診表に記載して持参するなど適切な医療を受けられる様に支援している。	大半の利用者は、母体の医療機関を受診している。内科・皮膚科医の往診や訪問看護師による健康チェック、加えて看護師である管理者の日常的健康管理が行われている。健康状態は関係者と共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師とは訪問時、お互いに気づきや情報を交換している。また管理者が看護師なので日々相談出来る状況にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを	入院時は介護添書を作成し、情報提供を行い入院中の混乱を最小限にできる様配慮している。入院中は面会の際、病院職員と情報交換し状況把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の研修に参加したり、勉強会での伝達講習を受ける等し知識を得るようにしている。母体の方針でホームでは看取りをしないが、入院の受け入れがあり、病院・本人・ご家族と早い段階から相談し合い、本人・ご家族が不安にならないように支援している。	重度化に向けては、利用時に出来ること出来ないことを書面で説明し同意を得ている。看取り支援は行っていないが、研修や勉強会での学びを活かし、家族・主治医と情報を共有して最大限の支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	いつでも閲覧できるようマニュアルを配備しており、AEDの設置や救命講習会に参加する等、急変時に対応出来る様に取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練は年2回ホーム全体で実施し、地震・水害を想定した訓練も行っている。勉強会時、非常持ち出し品の確認をしたり、運営推進会議時にそれらの状況報告し意見を仰いでいる。非常食の備蓄も少しづつ実施している。	年2回、消防署の指導を得て地震・水害・Jアラートを含む日中・夜間想定避難訓練を行い、課題を次回の訓練に活かしている。非常時に備え運営推進会議や外部・内部の勉強会で理解に努め、さらに町内会の防災訓練に参加するなど、地域全体の課題として捉えている。	避難訓練に地域の方に継続しての参加要請や、災害時の避難場所の確認(事業所・家族)と連絡方法の検討、災害時備蓄品の充実、災害時に於ける外出や入浴など、ケア別の対応等への取り組みに期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、入居者様が不快にならない様な声掛けが出来る様工夫している。また情報収集時や外部との連絡時などは、取扱いに注意している。	家族アンケートの中に接遇についての項目があり、出された意見は職員に周知改善に努めている。不適切なケアにならないように、管理者や職員間で注意し合っている。個人関連の書類もプライバシーの配慮に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	個々の希望を傾聴し、一方的な支援にならない様にいくつか選択出来る様に努めている。意思表示が困難な場合でも表情を読み取るなど努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	個々の体調を確認した上でご本人のペースを大切に、出来るだけご本人の希望に添える様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの理容室が無い場合は定期的に訪問美容を利用し、好みの洋服を選んで着て頂けるよう配慮し支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常会話等で好みを聞いて献立に取り入れるようにし、同じテーブルで会話をしながら食事をするようにしている。又、共に準備や片付け等行える様に支援している。	美味しく食事が出来るようにユニット毎に献立を作成し、味付けや彩り、栄養バランス、楽しい会話を心掛け、利用者と一緒に食卓を囲んでいる。駐車場で焼肉、ホットプレートで利用者が野菜を炒めたり、畑で採れたナスやキュウリなどを食材にしたり、誕生日は出前やケーキでお祝いするなど、食事に変化をつけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量や水分量を記録に残し、職員全員で共有し、食事形態やトロミを付ける等ご本人の状況に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、ご自分で出来ない方には職員が介助し、夜間は義歯洗浄剤を使用し清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックをして本人の排泄パターンを確認出来る様にし、それを基に定時誘導や、一人一人に合わせたタイミングでトイレ誘導を行っている。	利用者の排泄状況を職員は共有し、羞恥心に配慮した見守りや声かけ誘導など個別に支援を行い、排泄の自立や失敗の軽減に繋げている。衛生用品の取り扱い、利用者の負担にならないよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルトなど取り入れたり、水分が十分に取れる様にしている。野菜嫌いな方も食事時の声掛けを工夫したり野菜ジュースを利用するなど工夫している。また運動の時間を設け身体を動かす機会を作っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	可能な限り個々の希望する時間に浴うようにしている。又、拒否の強い方には声掛けの工夫したり、入浴準備を一緒に行うなど気持ち良く入浴できる様に支援している。	毎日入浴出来る態勢であるが、同性介助や利用者の意向に配慮し、週2～3回の入浴を基本としている。お湯は一人毎に張り替え、浴室は常に暖かくし、状態によっては足湯をしながらシャワー浴を行っている。入浴後は「気持ち良かった」の声が聞かれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースで自室で休憩を取ったり、居間でくつろげる様支援している。また、入眠時は個々が好み明るさの調整をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のファイルを作成し、服薬状況や副作用などの情報を理解できるようにしている。症状の変化や副作用の有無等を職員間で確認、共有するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の得意な事や出来る事を把握し、お手伝いをして頂いたり、する機会を作るようにしている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全ての希望に沿う事は難しいが、家族の協力を得て外出の機会を作ったり、散歩に出かけたりして支援している。車椅子利用の方もホーム前の畑を見に行ったり、ホーム周囲を散歩している。	利用者の意向と体調に応じて、家族の協力も得ながら外出支援を行っている。周辺の散歩、畑の水やりや野菜の生長の確認、日用品や本などの買い物、ドライブを兼ねて公園のバラを觀賞している。外出が困難な時も、換気のため窓を開け外気に触れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を所持している方が数名いるが、使う機会が少なく希望もない為、支援する事はあまりないが希望時や使う機会がある際は自分で支払が出来る様環境は整えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要時、希望時はホームの電話を使用して頂いている。また遠方の親族から荷物が届いた際の御礼の葉書を代筆し、名前だけは書いて頂けるようにするなどの支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった花や、ちょっとした飾りつけ等をしたり、廊下や居間の壁には季節を感じられるような貼り絵をするなど工夫している。また居室やトイレ・洗面所などわかりやすいように表示をし、午後の日差しをカーテンで調節する配慮をしている。定期的に温度・湿度をチェックし換気や加湿の調整をしている。	ユニット毎に趣の違いはあるが、採光や換気、温湿度、清掃に配慮し、心地良い空間になるよう努めている。居間にはソファコーナー、窓辺には食卓コーナー、壁側には洗面台を備えている。利用者と一緒に手作りのひな人形や、行事の写真等が飾られ温もり感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間と食堂は区切りが無い為、食卓テーブルの配置を変えている。また好きな場所に座り気の合う同士で過ごせる様、ソファや椅子を配置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人の好きな写真を飾ったり、使い慣れた家具を置く等している。荷物を持っていない場合や不足の物を補充する場合はご本人の好みを考慮して選ぶようにしている。	居室には慣れ親しんだ家具類を持ち込み、設置のクローゼットには生活用品が収納されている。温湿度計を確認しながら濡れたバスタオルを干したり、換気のため窓を開けている。壁には趣味の物を飾ったりと、その人らしい生活環境になるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており、手すりも多く安全に移動出来る様な環境作りをしている。個々の心身状況を確認し安全に生活出来る様に家具を配置するように配慮している。		